

令和8年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修通信

知りたい・知ってほしい研修(保幼小連携)

テーマ

第4回研修会開催 令和8年6月25日(木)

【宇治市管理職研修講座と合同実施】



参加者内訳：保育所（園）6名・幼稚園1名・認定こども園11名・小学校19名・中学校10名

講演①

「令和8年度宇治市のめざす教育・保育」

教育総合推進センター長

武田 義博

「令和8年度乳幼児教育・保育支援センターについて」

乳幼児教育・保育支援センター長

藤井 真由美



講演②

「保幼小連携から小中一貫教育で培う『育ちと学びの連続性』による人づくり」

京丹後市教育委員会 教育理事兼総括指導主事 久保 有紀 氏

京丹後市立峰山中学校 校長

田辺 健二 氏



研究協議

「保幼小連携から小中一貫教育で培う『育ちと学びの連続性』による人づくり」



講演①

課題や問題を教育者の視点からでなく、
主体である子どもからの視点で考える大切さ

参加者の心に残ったこと

学校に行くのが楽しくないと感じている子が多いと
いうデータを見て、接続の重要性を感じました。

宇治市の子どもたちの学びに向かう力、自ら希望を
もって人生を切り拓いていこうとする思いが低い
ことを知り、乳幼児期の教育と小中への接続の
大切さをあらためて感じた。

「自分で考える力」「自分から取り組む力」を育成するのは、
就学前教育においても学校教育においても重要である。

連携を深めていくには、まず現場の先生方の余裕が必要ではないかと思います。

そしてメリットがあるということを理解し合うことも必要です。

いろいろとステップを踏んでいくことになる、そのキーとなるのが支援センターだと考えます。

講演②

正に「一貫」した実践を教授いただき、感動しています。狭義の「架け橋」ではなく、どんな人間
として育てて欲しいかという教育の「夢」としての架け橋を感じたためです。「型にはまらない、
一先ずやってみる、つまづくことで飛躍する」パワーワードを柱にされているのが、ステキです。



就学前から中学までの取り組み、また、形になっていくまでの話には興味が
持てたとともに、対面しながら互いを知ることの大切さも改めて感じます。

一貫教育とまちづくりを共に進めているというのは、大切な視点だと感じました。「10年かけて子どもを育てる」という
言葉がありましたが、年長は1年生になるための準備をする時期として1年だけ加えるのではなく、せめて3歳から
連携の内容にいられて考えていきたいと思います。実際は「0歳から15年かけて子どもを育てる」を考えたいです。

研究協議を通して

今後、幼小中接続において取り組みたいこと

自園のブロック以外の先生方と協議をさせていただき、取り組みや考え方に今後のヒント
などを得ることができました。気軽に交流できるような取り組みをしながら、接続させたい。

職員同士の顔の見える関係作りから実践へと。
担任同士の連携を増やしたいです。

文化の違いを理解し、その垣根を超えられるような、
簡単な取り組みからどんどんやっていこうと思いました。

自分が小学校教員と幼児教育施設長として勤務した経験をもとに、教員と保育者の教育に対する
考え方の違いを明らかにすることが、保幼小の連携を強化していくことに必要だと感じた。



講座での学び

小・中学校より

よりよい子供たちの成長のために、保幼小中での連携を深めていく
必要性を強く感じた。またそのための組織作りの重要性も痛感した。



別の市町の実践を聞いたのは良かったです。また研究協議では、
架け橋ブロック以外の先生方と話せたのは違う発見がありました。

今求められている探求の取組を保幼小中連携の中でどのように
推進していくか、について考えることができました。

「育ちと学びの連続性」とは何か、について
時間があればもっと交流したかったです。

会議の日程が合わないのではなく、無理にでも
設定していかないと進まない事もわかりました。

京丹後市が実践されている保幼小中連携はこれからの流れや指針となる素晴らしい
ものであった。特に「保育・教育を貫くものを設定すること」は最重要である。

目標、児童生徒像を共有し、一緒になって子どもの育成を目指す理念が浸透していくと、教職員が
それぞれの立場から何ができるかについて考え取り組んでいくことができるのでは、と感じました。

小学校の中でも1年生担任と教務主任だけが意識が高まり、
中学年以上の担任にはまだまだ連携の意識が高められない。

小中一貫を保幼小中一貫にしていくほうがいいと思いました。

